



IFRS news

February 2010

PRICEWATERHOUSECOOPERS 

長く待たれている保険契約の基準の進展

英国のPwC ACS(Accounting Consulting Services)のパートナーGail Tuckerとシニア・マネジャーDewald van den Bergは、保険契約プロジェクトの進展に関するサマリーを作成しました。

IASBは、その設立以前からプロジェクトが進められている保険契約に関する公開草案を2010年5月に公表する予定です。現在様々な会計処理が行われていることから(PwCが最近、保険業界のアナリストに対して行った調査”Making Sense of the Numbers”「数字を理解する」でも指摘の通り)、最終基準(2011年6月公表予定)は保険業界に属する財務諸表作成者およびアナリストにより歓迎されると予想されます。2011年に公表される新基準により、EU域内の財務諸表作成者は、2012年に保険者に影響を与えるソルベンシー IIの変更とともに、この新しい要求事項について検討することが可能となります。

なぜそれほど長い時間がかかっているのか？

FASBが2008年10月より当該プロジェクトに参加し、両審議会はIASBが2007年に公表した保険契約に関するディスカッション・ペーパーに含まれている提案に関する議論を行っています。

保険契約に関する多くの論点があり、IASBの他のプロジェクト(収益認識、金融商品および非金融負債(IAS第37号改訂)等)と同時進行であるため、議論は困難となっています。このような複雑性の結果として、また、FASBでは当該論点の議論に費やす時間が少ないことから、プロジェクトのスケジュールは大幅に遅延することになりました。両審議会は、通常の月次以外の臨時の会議を含む合同会議を開始させました。これは、2010年6月に3名のIASB理事の退任前に、当該草案を公表できるようにするためです。

当該草案はどのような内容となるのか？

2007年のディスカッション・ペーパーでは、保険契約の評価に第三者への保険契約の譲渡に基づくという単一の「現在出口価値」アプローチを使用することを提案しましたが、その後、IASBは現在出口価値の考え方をとらないこととしました。両審議会は多くの測定モデルを検討し、測定には各報告日に再測定される以下の基礎単位を用いて、保険者債務の現在評価を表示することを仮に決定しました。

- 保険者による債務の履行とともに発生が予想される将来キャッシュフローの、バイアスを除去された確率加重平均値
- 貨幣の時間的価値
- 将来キャッシュフローの金額とタイミングに関する不確実性の影響に対するリスク調整
- 契約開始時の利得を除外する金額

当該草案が公表可能となるまでに、両審議会が議論を行う重要な項目はまだ多数あります。各審議会における暫定的決定に関する非公式の記録(および、上記“Making sense of numbers”)は、pwc.com/insuranceの‘IFRS’のページより入手可能です。

次のステップ

両審議会では当該基準の適用範囲に関する議論をまだ行っていません。IFRS第4号「保険契約」では、保険契約を一方が他方から重大な保険リスクを引き受ける契約と定義しています。この定義が改訂されない場合、固定された価格により保守契約を結んだサービス・プロバイダー等の保険者以外の企業は議論の進展をフォローし、この新しいモデルの意味を検討することが必要となります。

あらた監査法人
東京都中央区銀座8丁目21番1号
住友不動産汐留浜離宮ビル(〒104-0061)
お問い合わせ: aratapr@jp.pwc.com

© 2009 PricewaterhouseCoopers Aarata. All rights reserved. "PricewaterhouseCoopers" refers to PricewaterhouseCoopers Aarata or, as the context requires, the PricewaterhouseCoopers global network or other member firms of the network, each of which is a separate and independent legal entity.